

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成31年 3月 1日

事業所名 放課後等デイサービス ジャンプステージ

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			運動スペースと個別指導ができる相談室があるので児童の課題のニーズによって授業プランをつくっている。	
	2 職員の配置数は適切である	○			一日の利用児童に対して指導員を多めに配置し、場合にマンツーマンでサービス提供できるように人員配置している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○			内装時点でスロープなど配慮した設計をしている。今後の課題としては車椅子の児童が利用する場合はトイレに手すりが必要となる。
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○				スタッフには毎月、個々の課題と目標設定の用紙を配布し出勤時にはその課題をテーマに取り組んでもらっている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○			現在アンケート実施中。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				ホームページで公開している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			定期的に他事業所との話し合いをする場をつくり情報交換をしている。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			他事業所への研修や、事業所内での勉強会を定期的に行っている。	
適切 な 支 援 の 提 供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成	○			カウンセリング用紙を活用し、保護者悩みのや児童の療育を課題の評価表を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			有資格者が、発達検査やカウンセリング用紙を活用し支援を行う。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			毎朝の申し送りと、週に一回の全体ミーティングで話し合いを行っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			利用時のカウンセリング表を活用し児童の体調、心の変化に合わせて臨機応変にサービス内容に強化をしている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			児童人数、児童の特性に合わせて外出や室内でのサービスを作成し、実施している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			児童人数、児童の特性に合わせて個別や集団でのサービスを作成し、実施している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			全体リーダー、サブリーダー、児童発達支援管理責任者による打ち合わせを行う。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			朝礼・終礼時に児童、親御さんの情報を共有している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげ	○			日誌の作成を行っている。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			朝礼・終礼時に児童、親御さんの情報を共有している。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			ガイドラインに沿って活動を行っている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者や管理者が代表して参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		学校のお迎え時に、担任と情報共有を行っている。	半年に一度は支援会議を行う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			現時点で必要とする利用者がいないため行っていない。看護師を常駐しているので必要に応じては対応できます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保護者からの情報共有で相互理解に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		現地点で学校を卒業した児童がいないため実施していない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児童発達支援センターや病院と情報交換や連携を行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		月に一度無料開放交流会を夕方以降の時間に行っていて地域住民の参加も毎回ある。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			今後積極的に参加していく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者との信頼関係を深めるために定期的に心理士のカウンセリング、児童発達支援支援管理の相談を実施している。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		月に一度無料開放交流会で親御さん同士の交流会も設けている。また臨床心理士のカウンセリング等検査も行っている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		担当者により行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		月に一度無料開放交流会を夕方以降の時間に行っていて地域住民の参加も毎回ある。親御さん同士の交流会も設けている。また臨床心理士のカウンセリング等検査も行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		月に一度無料開放交流会を夕方以降の時間に行っていて地域住民の参加も毎回ある。親御さん同士の交流会も設けている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		児童発達支援管理責任者及び管理者が対応窓口となっている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月に一度無料開放交流会を夕方以降の時間に行っていて地域住民の参加も毎回ある。親御さん同士の交流会も設けている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		新人スタッフの研修の中で個人情報について話し合いをつくっている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		月に一度無料開放交流会を夕方以降の時間に行っていて地域住民の参加も毎回ある。親御さん同士の交流会も設けている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		月に一度無料開放交流会を夕方以降の時間に行っていて地域住民の参加も毎回ある。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		入社時、また定型的な事業所内での研修で話し合いをしている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		入社時、また定型的な事業所内での研修で話し合いをしている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		入社時、また定型的な事業所内での研修で話し合いをしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に	○			現時点で必要とする利用者がいないため行っていない。看護師を常駐しているので必要に応じては対応できます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		看護師がアレルギー一覧表を作成し、事業所内での研修で話し合いをしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット・事故報告書はその都度話し合いを共有を行っている。	